

都市再生整備計画 事後評価シート
大豆島地区


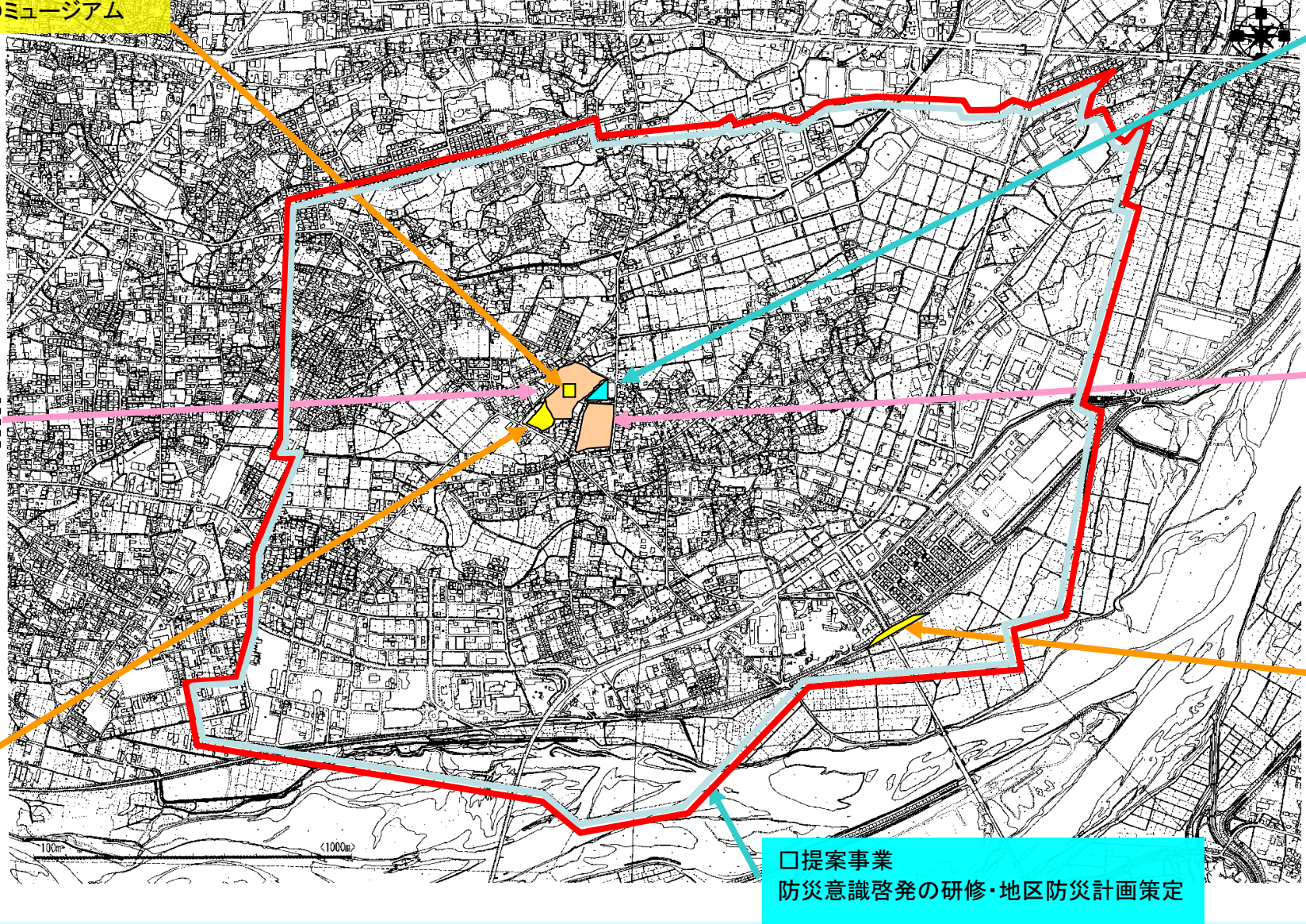



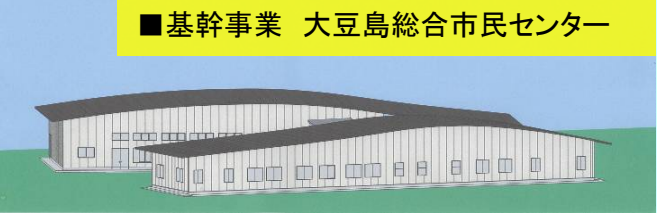

平成25年3月

長野県長野市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県		市町村名	長野市		地区名	大豆島地区			面積	483ha		
交付期間	平成22年度～24年度		事後評価実施時期	平成24年度		交付対象事業費	760.4百万円	国費率	0.321				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(市道若里村山堤防線)、高質空間形成施設(野外彫刻ながのミュージアム)、高次都市施設(大豆島総合市民センター)										
		提案事業	地域創造支援事業(大豆島児童センター)、まちづくり活動推進事業(防災意識啓発の研修・地区防災計画策定)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		提案事業											
	新たに追加した事業	基幹事業											
		提案事業											
交付期間の変更	当初		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	地域交流センターの講座受講者数	人/年度	3,203	H20	3,839	H24	3,834	4,841	○	ありなし	公民館の講座数の増加や拡充により、受講者数が増加した。	平成25年4月
	指標2	子育て環境の満足度	ポイント	2.72	H21	3.30	H24	2.43	2.65	×	ありなし●	子育てを対象とした講座が不足している。社会情勢等への不安が影響している。	平成25年3月頃
指標3	災害(地震・風水害等)に備え対策をしている世帯数	%	61.54	H19	75	H24	92.42	79.46	○	ありなし	防災訓練、講演会の開催により、防災に対する意識が高くなった。	平成25年3月頃	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	生き生き学べる環境の満足度	ポイント	2.96	H20				2.70			子育てを対象とした講座が不足している。社会情勢等への不安が影響している。	平成25年3月頃
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 本事業を通してまちづくりに対する意識が高揚したことにより、住民自治協議会が中心となって大豆島原産の「巴の錦」(菊)を1軒1株育てる活動が行われるようになった。 新児童センターの完成により、子ども達が安全に放課後や長期休暇中等に過ごせるようになった。 住民自治協議会の中に安全防災部会が設置され、防災訓練等を住民自らが計画して行うようになった。 												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	所定のモニタリングシートによるモニタリング		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 計画期間終了後においても、モニタリングの手法を用いて定期的に継続事業の進捗状況を確認する。					
	住民参加プロセス	事業の進捗状況等を住民に公表		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も「元気なまちづくり市民会議」等において現況を説明するとともに、地区の広報誌への掲載を検討する。					
持続的なまちづくり体制の構築	住民による安全安心なまちづくり		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 引き続き、「安全安心隊」による児童の見守り及び、防災講演会等を開催し、防災に対する意識を高めるとともに、実際の災害に備えた防災訓練を開催する。						

様式2-2 地区の概要

大豆島地区(長野県長野市) 都市再生整備計画の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
地域の生活利便性を高める拠点形成と自然と都市的機能が調和した安全なまちづくり ① 地域の生活交流拠点を集約し、コミュニティと生活利便性の向上を目指す。 ② 安心して子どもを産み育てることができる住環境の向上を目指す。 ③ 大規模災害時の拠点機能を整備し、住民の防災意識の高揚を図り、安全・安心なまちづくりを目指す。		地域交流センターの講座受講者数	単位:人/年度	3,203	H20	3,839	H24	4,841	H23
		子育て環境の満足度	単位:ポイント	2.72	H21	3.30	H24	2.65	H23
		災害(地震・風水害等)に備え対策をしている世帯数	単位:%	61.54	H19	75	H24	79.46	H23
凡 例 ■ 基幹事業 □ 提案事業 ○ 関連事業	■ 基幹事業 野外彫刻ながのミュージアム 						□ 提案事業 大豆島児童センター 		
○ 関連事業 大豆島公園整備事業 耐震性貯水槽 		○ 関連事業 大豆島小学校増築工 							
■ 基幹事業 大豆島総合市民センター 		■ 基幹事業 市道若里村山堤防線 							
		□ 提案事業 防災意識啓発の研修・地区防災計画策定							
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 生活の利便性向上や地域交流の活性化のための、拠点となる「大豆島総合市民センター」を建設した。 渋滞の際の農道や生活道路への一般車両の入り込みを減らし、農耕者や児童等の安全を確保するため、渋滞の一番の原因となっていた市道若里村山堤防線の「落合橋北詰交差点」を改良し、渋滞の緩和に寄与した。 「大豆島児童センター」に通う児童の安全の確保のため、同センターを移転新築したことにより、交通量の多い県道を渡らずに小学校から行けるようになった。 ユニバーサルデザインを取り入れ、高齢者に配慮した地域交流の促進に寄与する施設とするため、「大豆島総合市民センター」の建設に当たっては、平屋建てでバリアフリー化するなど高齢者等に配慮した施設とした。 								
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 公民館活動や生涯学習などを中心に、住民同士の交流を図る。 住民自治協議会で実施する各事業や公民館で行っている各種講座などの充実を図る。 大豆島総合市民センターを活用し、親子で参加できる講座の充実を図る。 大豆島児童センターの利用促進を図る。 								